9．京都府立福知山高校連携授業・MALUI 連携

渡部　凌空

1．概要

京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室では、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「京都府北部の MALUI・高大連携による文化資源を生かした地域づくり」（研究代表：東昇）の一環として、昨年度より京都府立福知山高校での土曜講座を実施している。また、今年度より福知山市所蔵の南岡区有文書の調査を開始した。

調査日程　　2024 年 10 月 25・26 日、12 月 13・14 日

調査参加者　東昇、井上直樹（以上教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、渡部凌空（４回生）、山蔭晴人（３回生）、上武恒介、若山阿美（以上２回生）

2．内容

（1）福知山高校土曜講座

今年度１回目の講座は 10 月 26 日に実施した（写真１）。地域の歴史に関心のある生徒や本学への進路希望を持つ生徒など、高校生・中学生の７名が参加した。講座では、同校に所蔵されている嘉永４年（1851）「御蔵米直段附控」という江戸時代の福知山藩の米価を記録した史料を扱った。本史料は、同校の教員が収集し、伝来したものと考えられる。生徒は大学生のアドバイスを受けながら、主に年号と米価の崩し字を読み解き、エクセルを用いて米価変遷を整理した。その後『福知山市史』や他地域の米価記録などを参考に、災害など当時の社会状況と米価増減の関係について考え、最後はグループ同士で意見交流をおこなった。

２回目の土曜講座は 12 月 14 日に実施した（写真２）。今回の講座には見学者など含めて 10 名程度が参加した。講座では、同じく同校に所蔵されている「広開土王碑文拓本」について、本学文学部歴史学科の井上直樹教授による講義をおこなった。この拓本は、全４軸からなる、高さ５メートルを超える石灰拓本で、昭和 10 年（1935）頃に同校の卒業生によって寄贈されたものである。まず高句麗の歴史や石碑の内容などについて講義をおこない、その後、講義内容を踏まえて実際に拓本を見ながらその解説をおこなった。

また、両講座では受講した生徒に対し講座内容の評価や大学生への質問などのアンケートを実施し、後日大学生からのフィードバックをおこなった。

（2）南岡区有文書調査

南岡区有文書の調査は主に 10 月 25 日、12 月 13 日に実施した。調査は福知山城天守閣にて実施し、付番・史料撮影・目録作成をおこない、全 129 点の目録作成と一部の史料撮影が

完了した。

この文書群は、特に江戸時代の福知山藩南岡村（現福知山市字天田）に関する江戸時代前期から明治時代までの文書が含まれる。南岡村は、南郷に属し、村高約 68 石で、その他に北接する木村から分村したため、「木村渡り」と称される木村分の田畑約 271 石を有していた。その他にも足軽屋敷や 2024 年に創建 200 周年を迎えた藩祖朽木稙綱を祀る朝暉神社も村内に存在していた。近代では、明治 14 年（1881）に木村と合併し、天田村となる。また、明治 30 年代以降、陸軍の駐屯地や練兵場などが設置され軍事的な要地となった。

本文書群は、市史編さん時の調査により、帳面は主題・形態別に分類し、さらに年代順に配列されている。この帳面は 83 点あり、寛文３年（1663）「田畑御検地帳名」（史料番号１）の検地帳は、江戸時代前期の福知山藩領の村々の石高を記した貴重な史料といえる。その他、一紙文書は２袋に分かれて分類されている。この一紙文書は土地売買証文や願書、藩の通達など内容は多岐にわたる。なかでも「取締衣食住分限定書」（史料番号 114）という百姓の生活規則を定めた分限帳や万延一揆での領民の要求を記した「奉願口上之覚」（史料番号 98）は当藩の地域性を反映している点からも注目される。

なお本文書群は、先に触れた福知山市史編さん時の調査で目録作成とマイクロフィルムの撮影がおこなわれており、本研究室での調査成果と照合することで、市史収集文書の追跡調査をおこなうことができる。この点に関しては今後進めていく予定である。

参考文献

京都府立福知山高等学校 1991『福知山高校資料室収蔵品目録』郷土資料編

福知山市史編さん委員会 1984『福知山市史』第３巻　福知山市

芦田完 1965『福知山市誌』下巻の２　福知山市

写真１　意見交流の様子（第１回土曜講座）

写真２　拓本解説の様子（第２回土曜講座）

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。（い）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第11号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町1-5
発　行　日　2025年3月31日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒606-8540　京都市左京区下鴨高木町38-2